

ヤリイカ対馬暖流 4. 地域の持続性

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産研究・教育機構 公開日: 2025-03-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 玉置, 泰司, 半沢, 祐大, 宮田, 勉, 神山, 龍太郎, 三木, 奈都子, 竹村, 紫苑, 棧敷, 孝浩, 松倉, 隆一, 渡邊, りよ メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2013941

4. 地域の持続性

概要

漁業生産の状況(4.1)

ヤリイカ対馬暖流系群は、青森県の小型定置網漁業、沖合底びき網漁業(以下、沖底)で大部分が獲られている。漁業収入はやや高位で推移していた(4.1.1.1 4点)。収益率と漁業関係資産のトレンドについては、全国平均値の個人経営体のデータを用いた結果、4.1.1.2 は4点と概ね高く、4.1.1.3 は2点とやや低かった。経営の安定性については、収入の安定性、漁獲量の安定性ともに3点と中程度であった。漁業者団体の財政状況は5点と高かった。操業の安全性は5点と高かった。地域雇用への貢献は高いと判断された(4.1.3.2 5点)。労働条件の公平性については、漁業で特段の問題はなかった(4.1.3.3 3点)。

加工・流通の状況(4.2)

青森県には買受人5人未満の小規模市場が存在し、漁獲物の特性によって買受人がセリ・入札に参加しない可能性があり、セリ取引、入札取引による競争原理が働かない場合も生じる(4.2.1.1 3点)。取り引きの公平性は確保されている(4.2.1.2 5点)。関税は冷凍は基本が10%であるが、各種の優遇措置を設けている(4.2.1.3 3点)。卸売市場整備計画等により衛生管理が徹底されている(4.2.2.1 5点)。仕向けは多くが高級食材である(4.2.2.2 5点)。労働条件の公平性も特段の問題はなかった(4.2.3.3 3点)。以上より、本地域の加工流通業の持続性は高いと評価できる。

地域の状況(4.3)

先進技術導入と普及指導活動は行われており(4.3.1.2 5点)、物流システムは整っていた(4.3.1.3 5点)。地域の住みやすさは2点であった(4.3.2.1)。水産業関係者の所得水準は中程度であった(4.3.2.2 3点)。漁具漁法及び加工流通技術における地域文化の継続性は高い(4.3.3.1 及び 4.3.3.2 5点)。

評価範囲

① 評価対象漁業の特定

本系群の北部海域(石川県～北海道)における2018年の漁業種類別漁獲量は定置網1,283トン(50.3%)、底びき網漁業578トン(22.7%)、棒受網漁業476トン(18.7%)である(松倉 私信)。ここで、3番目に来る棒受網は農林水産省の漁業・養殖業生産統計では「その他の網漁業」に区分され、漁業経営調査等の情報が得られないため割愛した。日本海北部海域の2019年ヤリイカ漁獲量1,442トン(松倉ほか2021)に対し、2019年漁業・養殖業生産統計(農林水産省)

でヤリイカが含まれる「その他のいか類」の県別漁業種類別漁獲量で上位に来るのは青森県の小型定置網(668 トン)、沖底(323 トン)である。青森県の小型定置網の中では底建網での漁獲量が多いが、漁業・養殖業生産統計では区別できないため、小型定置網を対象とする。したがって評価対象漁業は青森県の小型定置網と沖底とする。

② 評価対象都道府県の特定

①の結果より青森県とする。

③ 評価対象都道府県に関する情報の集約と記述

評価対象都道府県における水産業並びに関連産業について、以下の情報や、その他後述する必要な情報を集約する。

- 1) 漁業種類、制限等に関する基礎情報
- 2) 過去 11 年分の年別水揚げ量、水揚げ額
- 3) 過去 36 ヶ月分の月別水揚げ量と水揚げ額
- 4) 過去 3 年分の同漁業種 5 地域以上の年別平均水揚げ価格
- 5) 漁業関係資産
- 6) 資本収益率
- 7) 水産業関係者の地域平均と比較した年収
- 8) 「住みよさランキング」（東洋経済新報社 2020）による各都道府県沿海市の住みよさ偏差値

4.1 漁業生産の状況

4.1.1 漁業関係資産

4.1.1.1 漁業収入のトレンド

漁業収入の傾向として、4.1.2.1 で算出した本系群の漁獲金額のデータを利用した。関係県(あるいは県別大海区)の各漁業による漁獲金額を参照し、過去 10 年のうち上位 3 年間の平均と参照期間の最新年(2015 年)の漁獲金額の比率を算出したところ、沖底 1 そうびき(青森県): 約 0.78(3 点)、小型定置網(青森県): 約 0.98(5 点)となった。これらを 2018 年漁獲量で重みづけした加重平均を行い全体の得点を算出し、4 点を配点する。

1点	2点	3点	4点	5点
50%未満	50-70%	70-85%	85-95%	95%を超える

4.1.1.2 収益率のトレンド

漁業経営調査報告には、漁業種類別かつ都道府県別のデータはないため、漁業種類別のデータを用いて分析を実施する。漁業経営調査の主とする漁業種類別統計を用いて 2014~2018 年の(漁労利益/漁業投下資本合計)の平均値で評価する。個人経営体統計の小型定置網及び沖底 50~100 トンの漁船トン数階層のデータ及び会社経営体統計の沖底 50~100 トン、100~200 トンの各漁船トン数階層を使用する。小型定置網は 87%で 5 点、沖底は順に 98%で 5 点、-0.5%で 1 点、-14%で 1 点なので平均値 2 点とし、2 つの漁業の漁獲量の割合により加重平均して、4 点を配点する。

1点	2点	3点	4点	5点
0.1未満	0.1-0.13	0.13-0.2	0.2-0.4	0.4以上

4.1.1.3 漁業関係資産のトレンド

漁業経営調査報告には、漁業種類別かつ都道府県別のデータはないため、漁業種類別のデータを用いて分析を実施する。漁業経営調査の主とする漁業種類別統計を用いて過去 10 年のうち最も高い漁業投下固定資本額の 3 年間の平均値と直近年で比較して評価する。個人経営体統計の小型定置網及び沖底 50~100 トンの漁船トン数階層のデータ及び会社経営体統計の沖底 50~100 トン、100~200 トンの各漁船トン数階層を使用する。小型定置網は 56%で 2 点、沖底は 64%で 2 点、41%で 1 点、58%で 2 点となる。漁業の漁獲量の割合により加重平均した結果は 2 点となり、2 点を配点する。

1点	2点	3点	4点	5点
50%未満	50-70%	70-85%	85-95%	95%を超える

4.1.2 経営の安定性

4.1.2.1 収入の安定性

漁業種類ごとの漁獲金額が公表されていないことから、農林水産省の漁業・養殖業生産統計より、関係県の「その他のいか類」総漁獲量に占める評価対象漁業種類による漁獲量の割合を年別で算出し、これに農林水産省漁業産出額の関係県における「その他のいか類」の漁獲金額を乗じ、本系群の漁獲金額として用いることで、過去10年間(2006～2015年)の漁獲金額の安定性を評価した。同漁業における10年間の平均漁獲金額とその標準偏差の比率を求めたところ、沖底1そうびき(青森県): 約0.19(4点)、小型定置網(青森県): 約0.32(3点)となった。これらを2018年漁獲量で重みづけした加重平均を行い全体の得点を算出し、3点を配点する。

1点	2点	3点	4点	5点
1以上	0.40-1	0.22-0.40	0.15-0.22	0.15未満

4.1.2.2 漁獲量の安定性

4.1.2.1と同様、農林水産省の漁業・養殖業生産統計を参照し、過去10年間の関係県の評価対象漁業種類による「その他のいか類」漁獲量を用いて、本系群の漁獲量の安定性を評価した。各漁業について10年間の平均漁獲量とその標準偏差の比率を求めたところ、沖底1そうびき(青森県): 約0.16(4点)、小型定置網(青森県): 約0.29(3点)となった。これらを2018年漁獲量で重みづけした加重平均を行い全体の得点を算出し、3点を配点する。

1点	2点	3点	4点	5点
1以上	0.40-1	0.22-0.40	0.15-0.22	0.15未満

4.1.2.3 漁業者団体の財政状況

青森県の沖底の経営体は、沿海漁業協同組合に所属したうえで、青森県機船底曳網漁業連合会に所属しており、また当該連合会は全国底曳網漁業連合会に所属している。青森県機船底曳網漁業連合会の収支報告は見当たらなかったが、全国底曳網漁業連合会の経常利益は黒字であった(全国底曳網漁業連合会 2020)。青森県の小型定置網の経営体は、主に沿海漁協に所属している。青森県の沿海漁協の経常利益(都道府県単位)は黒字であった(農林水産省 2020a)。このことから5点を配点する。

1点	2点	3点	4点	5点
経常収支は赤字となっているか、または情報は得られないため判断ができない	.	経常収支はほぼ均衡している	.	経常利益が黒字になっている

4.1.3 就労状況

4.1.3.1 操業の安全性

令和元年の水産業における労働災害及び船舶事故による死亡者数のうち、評価対象漁業における事故であることが特定されたか、もしくは、評価対象漁業である可能性を否定できない死亡者数は、青森県 0 人であった(厚生労働省 2021a, 運輸安全委員会 2021)。したがって、1,000 人当たり年間死亡者数は、青森県 0 人となる。以上より、5 点を配点する。

1点	2点	3点	4点	5点
1,000人漁期当たりの死亡事故1.0人を超える	0.75-1.0人	0.5-0.75人	0.25-0.5人	1,000人漁期当たりの死亡事故0.25人未満

4.1.3.2 地域雇用への貢献

水産業協同組合は主たる事務所の所在地に住所を構えなければならないことを法的に定義づけられており(水産業協同組合法第 1 章第 6 条)、その組合員も当該地域に居住する必要がある(同法第 2 章第 18 条)。そして漁業生産組合で構成される連合会も当該地区内に住居を構える必要がある(同法第 4 章第 88 条)。法務省ほか(2017)によれば、技能実習制度を活用した外国人労働者についても、船上において漁業を行う場合、その人数は実習生を除く乗組員の人数を超えてはならないと定められている。以上のことから対象漁業の就業者はすべて当該地区内に居住しているとして 5 点を配点する。

1点	2点	3点	4点	5点
事実上いない	5-35%	35-70%	70-95%	95-100%

4.1.3.3 労働条件の公平性

労働基準関係法令違反により 2020 年 12 月 15 日現在で公表されている青森県の送検事案件数は 7 件であった(セルフキャリアデザイン協会 2020)。そのうちヤリイカ漁業に関わる可能性のある組織が 1 件含まれていたものの、無資格の労働者にフォークリフトを運転させたケースであり、ヤリイカ漁業における労働条件の公平性は低くはないと考えられる。以上より 3 点を配点する。

1点	2点	3点	4点	5点
一部被雇用者のみ待遇が極端に悪い、あるいは、問題が報告されている	.	能力給、歩合制を除き、被雇用者によって待遇が極端には変わらず、問題も報告されていない	.	待遇が公平である

4.2 加工・流通の状況

4.2.1 市場の価格形成

ここでは各水揚げ港(産地市場)での価格形成の状況を評価する。

4.2.1.1 買受人の数

青森県には40か所の魚市場がある。このうち年間取扱量が100トン未満の市場が6市場、100～500トン未満の市場が10市場あり、全体の約9割が年間取扱量3,000トン未満の市場となっている。買受人数に着目すると、50人以上登録されている市場は3市場、20～50人未満の登録が13市場、10～20人未満の登録が15市場、5～10人未満の登録が4市場、5人未満の小規模市場も5市場存在している(農林水産省2020b)。買受人5人未満の小規模市場では、漁獲物の特性によって買受人がセリ・入札に参加しない可能性があり、セリ取引、入札取引による競争原理が働かない場合も生じると考えられる。以上より3点を配点する。

1点	2点	3点	4点	5点
利用できる情報はない	.	少数の買受人が存在する	.	多数の買受人が存在する

4.2.1.2 市場情報の入手可能性

2020年6月21日に改正された卸売市場法が施行された。この第4条第5項により、業務規程により定められている遵守事項として、取扱品目その他の売買取引の条件を公表することとされ、卸売の数量及び価格その他の売買取引の結果等を定期的に公表することとされた。また、従来規定されていた「県卸売市場整備計画」に係る法の委任規定が削除されたことから、これまで各県が作成していた卸売市場整備計画を廃止する動きもあるが、これまで整備計画で定められていた事項は引き続き守られていくと考えられる。各県が作成している卸売市場整備計画では、施設の整備、安全性確保、人の確保等と並んで、取引の公平性・競争性の確保が記載されている(青森県2017)。水揚げ情報、入荷情報、セリ・入札の開始時間、売り場情報については公の場に掲示されるとともに、買受人の事務所に電話・ファックス等を使って連絡されるなど、市場情報は買受人に公平に伝達されている。これによりセリ取引、入札取引において競争の原理が働き、公正な価格形成が行われていると考えられる。以上より5点を配点する。

1点	2点	3点	4点	5点
利用できる情報はない	.	信頼できる価格と量の情報が、次の市場が開く前に明らかになり利用できる	.	正確な価格と量の情報を随時利用できる

4.2.1.3 貿易の機会

2020年10月1日時点でのヤリイカの実効輸入関税率は基本10%であるが、冷凍でWTO協定を締結しているものに対しては5%となっている(日本税関2020)。非関税障壁にあたる輸入割当も対象となっている(経済産業省2021)。関税、非関税障壁を平均して評点し、3点を配点する。

1点	2点	3点	4点	5点
貿易の機会を与えられていない	.	何らかの規制により公正な競争になっていない	.	実質、世界的な競争市場に規制なく参入することが出来る

4.2.2 付加価値の創出

ここでは加工流通業により、水揚げされた漁獲物の付加価値が創出される状況を評価する。

4.2.2.1 衛生管理

青森県では、「第10次青森県卸売市場整備計画」(2017年2月)に則り、県内の産地卸売市場及び小規模市場の衛生状態は、県及び市町村が定める衛生基準に照らして管理されてきた。また、「H-HACCP(青森ハサップ): 青森県食品衛生自主衛生管理認証制度」を制定し、衛生管理の徹底を図ってきた(青森県2018)。ただし、2020年6月21日に改正された卸売市場法が施行され、従来規定されていた「県卸売市場整備計画」に係る法の委任規定が削除されたことから、各県が作成していた卸売市場整備計画を廃止する動きもあるが、これまで整備計画で定められていた事項は引き続き守られていくと考えられる。また、食品の安全性を確保するための自主的管理認証制度を制定しており、県・市町村の衛生基準に基づく衛生管理が徹底されている。なお2018年6月13日に食品衛生法等の一部が改正され、すべての食品等事業者を対象にHACCPに沿った衛生管理に取り組むこととなったため、今後、自主的管理認証制度についての取り扱いが変更される場合もあると思われる。以上より5点を配点する。

1点	2点	3点	4点	5点
衛生管理が不十分で問題を頻繁に起こしている	.	日本の衛生管理基準を満たしている	.	高度な衛生管理を行っている

4.2.2.2 利用形態

「お刺身や寿司種は美味で、イカの中では高級種とされます」とあるように(青森県漁業協同組合連合会2015)、生鮮食用が主であり、5点を配する。

1点	2点	3点	4点	5点
魚粉/動物用餌/餌料	.	中級消費品(冷凍、大衆加工品)	.	高級消費品(活魚、鮮魚、高級加工品)

4.2.3 就労状況

4.2.3.1 労働の安全性

令和元年の水産食品製造業における労働災害による死傷者数は、青森県 32 人であった(厚生労働省 2021b)。水産関連の食料品製造業従事者数は、利用可能な最新のデータ(令和元年)では、青森県 4,019 人であった(経済産業省 2020)。したがって、1,000 人当たり年間死傷者数は、青森県 7.96 人となることから、1 点を配点する。

1点	2点	3点	4点	5点
1,000人年当たりの死傷者7人を超える	7人未満6人以上	6人未満4人以上	4人未満3人以上	1,000人年当たりの死傷者3人未満

4.2.3.2 地域雇用への貢献

2018 年漁業センサスによれば、ヤリイカを漁獲する青森県における水産加工会社数は 147 であり(農林水産省 2020c)、全都道府県の加工会社数の平均 155 と比較すると、3 点となる。

1点	2点	3点	4点	5点
0.3未満	0.3以上0.5未満	0.5以上1未満	1以上2未満	2以上

4.2.3.3 労働条件の公平性

労働基準関係法令違反により 2020 年 12 月 15 日現在で公表されている青森県の送検事案件数は 7 件であった(セルフキャリアデザイン協会 2020)。そのうちヤリイカ加工に関わる可能性のある組織が 1 件含まれていたものの、無資格の労働者にフォークリフトを運転させたケースであり、ヤリイカに関わる加工・流通業における労働条件の公平性は低くはないと考えられる。以上より 3 点を配点する。

1点	2点	3点	4点	5点
一部被雇用者のみ待遇が極端に悪い、あるいは、問題が報告されている	.	能力給、歩合制を除き、被雇用者によって待遇が極端には変わらず、問題も報告されていない	.	待遇が公平である

4.3 地域の状況

4.3.1 水産インフラストラクチャ

4.3.1.1 製氷施設、冷凍・冷蔵施設の整備状況

青森県内の冷凍・冷蔵倉庫数は 126 工場あり、冷蔵能力は 307,545 トン(冷蔵能力を有する 1 工場当たり 2,606 トン)、1 日当たり凍結能力 7,752 トン、冷凍能力を有する 1 工場当たり 1

日当たり凍結能力 90.1 トンである(農林水産省 2020c)。好不漁によって地域間の需給アンバランスが発生することもあるが、商行為を通じて地域間の調整は取れている。地域内における冷凍・冷蔵能力は水揚げ量に対する必要量を満たしていると考えられることから、5 点を配点する。

1点	2点	3点	4点	5点
氷の量は非常に制限される	氷は利用できるが、供給量は限られ、しばしば再利用されるか、溶けかけた状態で使用される	氷は限られた形と量で利用でき、最も高価な漁獲物のみに供給する	氷は、いろいろな形で利用でき、氷が必要なすべての魚に対して新鮮な氷で覆う量を供給する能力がある	漁港において氷がいろいろな形で利用でき、冷凍設備も整備されている

4.3.1.2 先進技術導入と普及指導活動

青森県における沖底では、小型漁船への転換による漁業経費の削減、海水殺菌装置及び活魚水槽の設置による漁獲物の高鮮度化に取り組んでいる(青森県漁業地域プロジェクト協議会 2011)。同県における小型定置網では、漁獲したヤリイカを船上で箱詰めし、「沖詰めヤリイカ」として販売するなど、漁獲物の付加価値向上を図っている(鰯ヶ沢町つがる市地域水産業再生委員会 2019)。以上より、青森県における沖底、小型定置網ともに 5 点を配点し、総合して 5 点を配点する。

1点	2点	3点	4点	5点
普及指導活動が行われていない	.	普及指導活動が部分的にしか行われていない	.	普及指導活動が行われ、最新の技術が採用されている

4.3.1.3 物流システム

Google Map によりヤリイカを主に水揚げしている漁港から地方、中央卸売市場、貿易港、空港等の地点までかかる時間を検索すると、幹線道路を使えば複数の主要漁港から中央卸売市場への所要時間は 2 時間半前後であり、ほとんどの漁港から地方卸売市場までは 1 時間前後で到着できる。また空港、貿易港までも 2 時間以内に到着可能であり、経営戦略として自ら貿易の選択肢を選ぶことも可能である。以上より 5 点を配点する。

1点	2点	3点	4点	5点
主要物流ハブへのアクセスがない	.	貿易港、空港のいずれかが近くにある、もしくはそこへ至る高速道路が近くにある	.	貿易港、空港のいずれもが近くにある、もしくはそこへ至る高速道路が近くにある

4.3.2 生活環境

4.3.2.1 地域の住みやすさ

地域の住みやすさの指標となる「住みよさランキング」(東洋経済新報社 2020)により、住みよさ偏差値の青森県沿海市の平均値 48.723 を用いて評価し、2 点を配点する。

1点	2点	3点	4点	5点
「住みよさランキング」総合評価偏差値が47以下	「住みよさランキング」総合評価偏差値が47－49	「住みよさランキング」総合評価偏差値が49－51	「住みよさランキング」総合評価偏差値が51－53	「住みよさランキング」総合評価偏差値が53以上

4.3.2.2 水産業関係者の所得水準

沖底の青森県での平均の所得水準は、276,415 円であった(国土交通省 2019)。また、2018 年漁業経営調査の個人経営体調査から、漁労所得をもとに 1 ヶ月当たりの給与に換算すると、小型定置網で 275,917 円となる(農林水産省 2019)。賃金構造基本統計調査(厚生労働省 2019)の産業別所定内給与額及び年間賞与その他特別給与額(企業規模計)により、青森県の企業規模 10～99 人の男性平均月給の平均 286,975 円と比較すると、沖底 3 点、小型定置網 3 点となった。また国税庁(2019)の 2018 年度「民間給与実態統計調査結果」第 7 表企業規模別及び給与階級別の給与所得者数・給与額(役員)によると、全国の資本金 2,000 万円未満の企業役員の平均月給与額は 504,167 円となっており、沖底の全国平均の役員クラスの持代(歩)数は 1.32 となっているため、364,868 円(青森県沖底役員クラス 2 点)であった。以上により沖底；総合 3 点、小型定置網 3 点のため 3 点と評点した。

1点	2点	3点	4点	5点
所得が地域平均の半分未満	所得が地域平均の50-90%	所得が地域平均の上下10%以内	所得が地域平均を10-50%超える	所得が地域平均を50%以上超える

4.3.3 地域文化の継承

4.3.3.1 漁具漁法における地域文化の継続性

日本海のヤリイカを主体として、青森県・山形県・新潟県では釣りや敷網、小型定置網の操業が行われてきた(笠原 2004)。

青森県の一本釣りは明治時代から始まっている。昭和 35 年ごろまでが最盛期で数百隻の操業があったが、棒受網、底建網の発達により減少した。漁期は 12 月下旬～翌年 5 月上旬であった。近年では 4 月上旬～5 月上旬となっている。主に水深 20～30m の岩礁地帯で操業する。一本釣りに代わり、棒受網が昭和 35 年から開始された。最盛期には 130 隻を越えた

が、底建網の発達で減少した。漁期は1～5月で、漁場は水深15～40mの砂地である。最後に底建網が昭和初期に始まり、昭和45年ごろには県内に広く普及した。漁期は11月～翌年6月で、当時の漁場は水深40m以浅であったが、現在は水深130mまで拡大している(笠原2004)。

山形県のヤリイカを対象とした主な漁法には釣り、敷網及び定置網がある。釣りでは餌として塩蔵したサメ肉を用い、操業は夜明けから夕方まで行う。漁期は12月～翌年3月で、漁場は水深35～50mの天然礁及び人工魚礁で行われてきた。敷網は3月1日～5月31日の間、主に地先の水深10～30mの岩礁地帯で行われる。釣りとは異なり、日暮れから夜明けまでの夜間に集魚灯を用いて操業する。小型定置網(浮網)は飛島地区のみで用いられ、産卵のために接岸するヤリイカを対象とする。漁期は2月下旬～5月上旬で、漁場は水深10～15mである(笠原2004)。

新潟県でヤリイカを主対象としている漁業は小型定置網、角網、一本釣り、棒受網及び刺網である。小型定置網の操業は粟島周辺の水深10mを中心に2～4月末まで行われる。佐渡島小木周辺で見られる角網は大謀型の網で、明治時代から操業が始まっている。漁期は2月中旬～5月末で、水深12～15mで操業が行われる。一本釣りは明治のころから行われている。船を使用する場合漁場は水深20～45m、船を使用しない場合には、陸上から岸を伝って回遊するイカを狙う。漁期は1月～3月末である。昭和28年ごろまで一本釣り主体であったが、昭和32年ごろより棒受網の操業が広がる。刺網は昭和27年ごろより操業されている。漁期は2月中旬～4月末で、漁場は水深12～20mの岩礁帯である(笠原2004)。

以上のように、青森県、山形県、新潟県において地域に特徴的な漁具・漁法が継承されていることが確認されたため、5点を配点する。

1点	2点	3点	4点	5点
漁具・漁法に地域の特徴はない	.	地域に特徴的な、あるいは伝統的な漁具・漁法は既に消滅したが、復活保存の努力がされている	.	地域に特徴的な、あるいは伝統的な漁具・漁法により漁業がおこなわれている

4.3.3.2 加工流通技術における地域文化の継続性

いか類の中で国内水揚げ量が最も多いスルメイカが、別名「夏いか」と呼ばれるのに対し、一般的にヤリイカは「冬いか」と呼ばれている。ヤリイカは古くから沖縄県を除く日本列島各地で食用イカとして人気が高い。身が軟らかく、味がよいうえに、美しいため常に高値をつける。また、比較的沖合の深場にいることが多く、漁獲が困難なために高級なものとなっている。夏から秋には小ヤリイカが漁獲される。これが冬には成体となり、いわゆるヤリイカとして流通する(藤原2011)。

特にヤリイカの漁獲量の多い青森県では12月～翌年4月ごろにかけて漁獲され、新鮮な物は刺身用として高級で、その身は透明感があり、甘味・旨味・ほどよい歯触りを堪能できる。寿司種にもよい。耳や足も柔らかく美味である(青森県漁業協同組合連合会 2015)。

青森県に次いで漁獲量の多い北海道ではミズイカ、ゴウイカとも呼ばれる。北海道でのヤリイカの分布は対馬暖流や津軽暖流の影響を直接受ける海域に限られている。高級イカとして珍重され、寿司種や刺身として利用されることが多い(北海道水産林務部水産局水産経営課 2021)。2月ごろ～5月にかけて主に道南の松前で水揚げされ、函館まで輸送される。函館の朝市では、活イカ刺しに生姜や大根おろしを添えて食べることが多い(たびらい 2021)。かつては春になると、「生きのよい獲れたてのヤリイカの刺身を山盛りにして、しょうが醤油をつけ、するすると飲み込むようにして食べた」(畑井 1986)という記述もある。卵をもった雌の子持ちヤリイカには独特のおいしさがあり、丸ごと茹でたり、煮たりして食べる(東京都中央卸売市場 2021)。

イカは加工品として消費される比率が約50%と高いことで知られる。ヤリイカはスルメイカに比べると肉質は薄めで、漁獲量も少なく高価であるため、スルメに加工して流通することはあまりないとされるが(全国いか加工業協同組合 2021)、水揚げ量の多い北海道函館周辺では、味のよいスルメの原料として親しまれているという情報もある。

また、いか類の最大の特長は、冷凍しても鮮度や味が変わりにくい点である。脂肪が少ないため、再冷凍しても味を損なうことがない。冷凍までの時間が短い船内急速冷凍では、特に高い鮮度が保たれる。家庭ではジッパー付き保存バッグやラップで密閉し、冷凍室で保存すればよいとされている(全国いか釣り漁業協会 2021)。高級で人気も高いことから、アフリカ沿岸や北米から近縁種が輸入されているとの報告もある(藤原 2019)。現在では前述のような冷凍技術が発達し、輸送手段や方法も整備されているため、遠隔地への流通も可能となっている。たとえば北海道松前のある水産業者は、水揚げしたヤリイカに滅菌した海水氷を敷き詰めることで鮮度の低下を防ぎ、旨味が熟成された状態で直送する通信販売を行っている(上野屋 2021)。

以上のように、水揚げ地域の食文化が伝えられ、発展しつつあることから5点を配する。

1点	2点	3点	4点	5点
加工・流通技術で地域に特徴的な、または伝統的なものはない	.	地域に特徴的な、あるいは伝統的な加工・流通技術は既に消滅したが、復活保存の努力がされている	.	特徴的な、あるいは伝統的な加工・流通がおこなわれている地域が複数ある

引用文献

- 鱈ヶ沢町つがる市地域水産業再生委員会 (2019) 浜の活力再生プラン(第2期),
https://www.jfa.maff.go.jp/j/bousai/hamaplan/attach/pdf/02.aomori/ID1202031_ajigasawachotsugaru.pdf, 2021年1月9日閲覧
- 青森県 (2017) 第10次青森県卸売市場整備計画(2017年2月)
<http://www.pref.aomori.lg.jp/kenhou/files/20170217b0007.pdf>
- 青森県 (2018) H-HACCP(青森ハサップ：青森県食品衛生自主衛生管理認証制度)
<https://www.pref.aomori.lg.jp/life/shoku/26haccp.html>、2016年3月16日閲覧
- 青森県漁業地域プロジェクト協議会 (2011) 青森県漁業地域プロジェクト改革計画書,
http://www.fpo.jf-net.ne.jp/gyoumu/hojyojigyo/01kozo/nintei_file/H230823_hukaura.pdf
- 青森県漁業協同組合連合会 (2015) ヤリイカ, 四季のお魚たち, 青森のお魚
<http://www.amgyoren.or.jp/fish/fish-win5.php>, 2021年1月25日閲覧
- 藤原昌高 (2011) ヤリイカ, 地域食材大百科第5巻, 農山漁村文化協会, 東京都, p.182
- 藤原昌高 (2019) やりいか, からだに美味しい魚の便利帳, 高橋書店, 東京都, p.159
- 畑井朝子 (1986) 道南松前の食, 日本の食生活全集①聞き書 北海道の食事, 農山漁村文化協会, 東京都, 134-203
- 北海道水産林務部水産局水産経営課 (2021) ヤリイカ
<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/ske/osazu/oz01fis/fis070.html> (2021年8月閲覧)
- 法務省・厚生労働省・水産庁 (2017) 特定の職種及び作業に係る技能実習制度運用要領－漁船漁業職種及び養殖業職種に属する作業の基準について,
https://www.otit.go.jp/files/user/docs/abstract_159.pdf, 2019年8月6日閲覧
- 笠原昭吾 (2004) 日本海のヤリイカ漁業. 平成15年度イカ類資源研究会議報告, 8-20.
http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/shigen/ika_kaigi/contents/yari/yari.pdf
- 経済産業省 (2020) 2019年工業統計表 地域別統計表,
<https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/kougyo/result-2/r01/kakuho/chiiki/index.html>
- 経済産業省 (2021) 輸入割当て(IQ)対象水産物の属名、製品形態等の一覧,
https://www.meti.go.jp/policy/external_economy/trade_control/03_import/04_suisan/download/201709IQichiran.pdf
- 国土交通省 (2019) 2018年度船員労働統計調査 <https://www.mlit.go.jp/k-toukei/senrou.html>
- 国税庁 (2019) 2018年度「民間給与実態統計調査結果」
<https://www.nta.go.jp/information/release/kokuzeicho/2019/minkan/index.htm>
- 厚生労働省 (2019) 2018年度賃金構造基本統計調査 <https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00450091&tstat=000001011429&cycle=0&tclass1=000001113395&tclass2=000001113397&tclass3=000001113405&tclass4val=0>
- 厚生労働省 (2021a) 「死亡災害報告」による死亡災害発生状況(令和元年確定値),
https://anzeninfo.mhlw.go.jp/user/anzen/tok/anst00_r01.htm, 令和3年3月10日閲覧

厚生労働省 (2021b) 「労働者死傷病報告」による死傷災害発生状況(令和元年確定値)
https://anzeninfo.mhlw.go.jp/user/anzen/tok/anst00_r01.htm, 令和3年3月11日閲覧

松倉隆一・久保田 洋・宮原寿恵 (2021) 令和2(2020)年度ヤリイカ対馬暖流系群の資源評価, 水産
 研究・教育機構, <http://abchan.fra.go.jp/digests2020/details/202081.pdf>

日本税関 (2020) 輸入統計品目表(実行関税率表)実行関税率表(2020年10月1日版)
https://www.customs.go.jp/tariff/2020_10/deta/j_03.htm, 2020年10月1日

農林水産省「漁業産出額」 https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/gyogyou_seigaku/

農林水産省「漁業・養殖業生産統計」 http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/kaimen_gyosei/

農林水産省「2014年～2018年漁業経営調査」 <https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/gyokei/>

農林水産省 (2020a) 2018年度水産業協同組合統計表(都道府県知事認可の水産業協同組合)
http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/suisan_kumiai_toukei/index.html

農林水産省 (2020b) 2018年漁業センサス第8巻 魚市場の部(都道府県編) <https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00500210&tstat=000001033844&cycle=0&year=20180&month=0&tclass1=000001132724&tclass2=000001136323&tclass3=000001138286>

農林水産省 (2020c) 2018年漁業センサス第8巻 冷凍・冷蔵、水産加工場の部(都道府県編)
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&toukei=00500210&tstat=000001033844&cycle=0&year=20180&month=0&tclass1=000001132724&tclass2=000001136323&tclass3=000001138286>

セルフキャリアデザイン協会 (2020) 労働基準関係法令違反に係る公表事案企業検索サイト
<https://self-cd.or.jp/violation>, 2020年12月15日に確認

たびらい (2021) 旬のもの, ヤリイカ, 函館旅行3月のおすすめ情報, 北海道観光情報
https://www.tabirai.net/sightseeing/hokkaido/info/monthly/mar_season-hakodate.aspx

東京都中央卸売市場 (2021) ヤリイカ, 旬の食材 水産
<https://www.shijou.metro.tokyo.lg.jp/shoku/suisan/yariika/>

東洋経済新報社 (2020) DataBank Series 2020, 都市データパック. 東京 1,731pp

上野屋 (2021) ヤリイカ生, 北海道松前獲れたて新鮮なヤリイカを北海道から直送通販!
[https://www.sakura-maguro.com/ika/\(2021年8月閲覧\)](https://www.sakura-maguro.com/ika/(2021年8月閲覧))

運輸安全委員会 (2021) 事故報告書検索, <https://jtsb.mlit.go.jp/jtsb/aircraft/index.php>, 令和3年3月10日閲覧

全国いか加工業協同組合 (2021) イカ加工のいろいろ <http://www.zen-ika.com/ikakakou/index.html>

全国いか釣り漁業協会 (2021) イカの鮮度, <http://www.jasfa.or.jp/contents/freshness.html>

全国底曳網漁業連合会 (2020) 平成30年度 正味財産増減計算書
<http://www.zensokoren.or.jp/disclosure/H30kessan.pdf>, 2020年5月13日アクセス

全国底曳網漁業連合会 (2021) 会員の紹介 <http://www.zensokoren.or.jp/link/kaiin.html>